

二〇一五年二月一七日(参加者一五名)

鈴生りの願いの絵馬に梅固し	よし子
紅梅の一枝挿されし吉野窓	よし子
愛のチョコ八十路の夢を膨らます	よし子
なで肩をずり落ちさうや春シヨール	よし子
苑めぐる北枝の梅はまだ固し	せいじ
梅が枝の雨滴に太る蕾かな	せいじ
池の面壁あちこちす四温かな	せいじ
春雨に濡るる宝塔丹のしるき	せいじ
閻王の鏡曇らす春埃	うつぎ
ちらほらの人出に苑の梅固し	うつぎ
音の無き堂のさざめき涅槃変	うつぎ
涅槃図に濁世の雨の募りけり	うつぎ
涅槃図の蛇はとぐるを解きて哭く	菜々
春光に尖る宝珠の九輪かな	菜々
囀りへお耳ふくよか観世音	菜々
観音へ七折れ八折れ芽木の坂	菜々
石室へ暗き羨道春寒し	満天
梅園の歌碑に屯す吟行子	満天

雨雫溜めて犇めく万朶の芽	わかば
春時雨苔まみれなる石塔に	わかば
瀬の楽と鳥語とが和す早春譜	こすもす
早春の風にはためく五色幕	こすもす
のどけしや参道の店ジプシーし	ひかり
雪解水集め高鳴る瀬音かな	ひかり
老幹の梅一輪に力満つ	かかし
室の花水子地蔵に溢れけり	明日香
うどん屋の湯気に足向く梅味かな	よう子
お御足にすぎる老婆や涅槃変	有香

定例句会みの選

二〇一五年二月一七日(参加者一五名)